

■ 大手カジュアル専門店の動向 (1)

※敬称略、順不同
2018.9.現在

【1】 コックス

最近決算年商	201億円
同営業利益	△4.1億円
(次期予想) 19年2月	
売上	207.5億円
営業利益	20億円
店舗数	257店舗
	2018年2月

**新店舗健闘も既存店の計画未達が敗因。
粗利益率改善は既存店の値下げが要因。**

- ・業態「イッカラウンジ」(低廉価格高感性)は利益に貢献。
- ・特に年売上1億円以上の上位55店舗で、重点的に月坪売上高の向上を狙う。
- ・eコマースは実績12億円(全社6%)に留まるも利益率改善。次期売上目標15億円(125.5%)比率7.2%狙う。
- ・18年5月から新社長寺脇栄一氏就任(イオングループ)。

【2】 ジーンズメイト

最近決算年商	97.3億円
同営業利益	△6億円
(次期予想) 19年3月	
	92億円
店舗数	81店舗
	2018年2月

(決算を3月に変更、18年は12.3ヶ月と変則数値)

RIZAP社の子会社化の効果発揮へ

営業利益は改善、黒字定着へ。レディスは2桁の伸び。

- ・利益改善は不採算店舗の閉鎖と仕入れコストの圧縮、さらに値下げ販売の抑制も効果。
- ・「ジーンズカルチャーを創る」がキャッチフレーズ。路面店からSC(ショッピングセンター)へ出店シフト、60店へ。24時間営業店舗は渋谷、池袋など重点路面店へ集約。

【3】 マックハウス

最近決算年商	308.5億円
同営業利益	2.2億円
(次期予想) 19年2月	
売上	302億円
営業利益	2.2億円
店舗数	410店舗
	2018年2月

**既存店とジーンズNBの昨対不振が低迷の要因
一方NAVYなどPBは昨対クリア**

- ・路面店は不振、店舗数比率約4割のSC立地業態は順調。
- ・大型店「マックハウス・スーパーストア」と「マックハウス・スーパーストア・フューチャー」が効果発揮中。さらに新業態「マックハウス アーバンストア」(都会的でスタイリッシュな店舗)をスタート(船橋)。
- ・メルマガなど情報配信による会員数は285万人達成。

【4】 ライトオン

最近決算年商	801億円
同営業利益	△28.5億円
直近半期決算	398億円
(18年2月 昨対93%)	
次期(18年8月)予想	
売上	770億
営業利益	12億
店舗数	505店舗
	2018年2月

**17年8月決算は赤字転落も18年はV字回復で黒字復帰へ
在庫見切り損と経費増からの脱却を実行**

- ・今後「ジーンズのセレクトショップ」が方針。
- ・「モコモコジーンズ」(防寒系)、和紙デニムなど開発に力点。
- ・業態は当面「ライトオン」中心だが、「ノーティドッグ」及びアウトレット店を開発努力中。
- ・52週MDで商品制度を向上させ、見切りを減らす戦術へ。

【5】 ファーストリテイリング 2018年8月決算は全世界事業、国内ユニクロともに大幅増収、増益は確実。

(全世界ベース2017年8月)	
年商	1兆8,619億円
同営業利益	1,764億円
(その内国内ユニクロ)	
年商	8,107億円
営業利益	959億円
国内店舗数	832店
	2017年2月

- ・17年8月国内ユニクロ実績は売上は増加したが、経費増で減益だった。
- ・ジーンズ系では「感動(機能)パンツ、アンクル短丈ジーンズ、などがヒットした。
- ・海外ユニクロはアジア依然順調、アメリカの赤字幅は減少。
- ・アメリカで買収した「Gブランド」事業は当面赤字。
- ・国内「GU」は売れ筋にやや難あり、6%増の1,991億円(17年8月)

■ 大手カジュアル専門店の動向（2）

※敬称略、順不同

【6】しまむら

最近決算年商	5,651億円
同営業利益	429億円
（次期予想）18年2月	
売上	6,300億円
営業利益	567億円
店舗数	2,145店舗
	2018年2月

2018年からEC事業を本格化し出遅れを挽回。自社サイトに加え、アマゾン、ゾゾタウンとも開始。

- ・主要業態売上（18年年2月）
- しまむら（中高年婦人） 4,519億円 1,365店
- アベイル（若年婦人） 504億円 301店
- バースデイ（幼児） 469億円 240店
- サンプル（雑貨） 195億円 96店
- ・海外店舗の台湾（42店）、上海（11店）は慎重操業。

【7】ハニーズ

最近決算年商	524億円
同営業利益	26億円
18年5月予想	
売上	482億円
営業利益	34億円
店舗数	870店舗（国内）
海外店舗含むと	1,049店舗
	2018年5月

中国は全店舗撤退へ意思決定 中国の苦戦は郊外型SCの乱立競合と、eコマース隆盛

- ・国内は売上微増、営業利益は28.4億円から36.8億円へ
- 増益要因はアセアン（ミャンマー等）生産の拡大、コストダウン。
- ・中国撤退による損失は約11億円を予想。
- ・ゾゾタウンにも出店し、ECの売上は好調（前期比145%）
- ・今後服飾雑貨の強化（MD業務を衣服商品企画に統合）。

【8】パル

最近決算年商	1,232億円
同営業利益	70億円
（次期予想）19年2月	
売上	1,238億円
営業利益	80億円
店舗数	935号店舗
	2018年2月

EC販売の好調もあり、売上高は増収 利益率の悪化も、販管費比率の改善で利益率は改善

- ・eコマースではZOZOTOWNへの売上（72億）急増などで、110億を突破、全社比も約9%へ。
- ・継承した「ナイスクラップ」売上100億突破。
- ・雑貨「3コンズ」は人気あり出店要請に応え33店舗出店。
- ・オリーブ・デ・オリーブから32店舗営業譲渡を受けた。
- ・社員がSNSで発信するコーデ提案「PALCLOSET」大人気。

【9】パレモ

最近決算年商	233億円
同営業利益	7.4億円
（次期計画）19年2月	
売上	236億円
営業利益	7.7億円
店舗数	469店舗
	2018年2月

不採算店舗の閉鎖は沈静化、アパレル事業は在庫回転の維持に注力し一定の成果

- ・アパレル155億（66.7%）、雑貨71億（30.5%）
- ・退職金制度変更計算により18年2月純利益は増加。
- ・今後はアパレル事業での新規ショップブランド開発と育成。新業態は「LUDICK PARK」、「DAISY MARRY」などで100店舗、60億以上を狙う。
- 持株会社体制へと移行、パレモ・ホールディングス(株)となった。ユニーから投資ファンド「フェニックスグループ」へ経営移管。

【10】アダストリア（ポイント）

最近決算年商	2,228億円
同営業利益	50億円
（次期予想）19年2月	
売上	2,270億円
営業利益	84億円
店舗数	1,501店舗
	2018年2月

売上増加も、総利益率の低下で利益は減少

- ・中国、韓国など複合ブランド店中心に不振、退店方向へ。一方台湾の「ニコアンド」は好調。
- ・主要業態別売上
- グローバルワーク 396億 ニコアンド 284億
- ローリーズファーム 235億 スタジオクリップ 243億 など
- ・eコマースに強み、売上高333億、前年比117.3%、国内売上比率は16.6%、自社ECサイト[.st]会員数700万人突破。